

# 胃ろうのケア

胃ろうチューブの動きを確認します	32
胃ろうは清潔に保ってください	33
胃ろう周囲の炎症と感染について	34

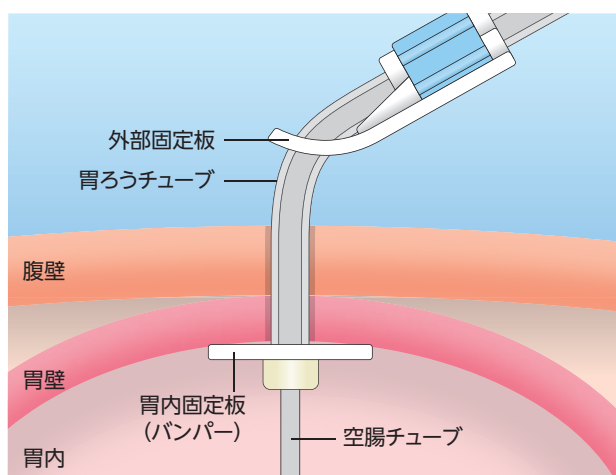
# 胃ろうのケア

チューブのトラブルや胃ろうの感染を予防するために、日常のチューブの観察と胃ろうを清潔に保つことが大切です。

## 胃ろうチューブの動きを確認します

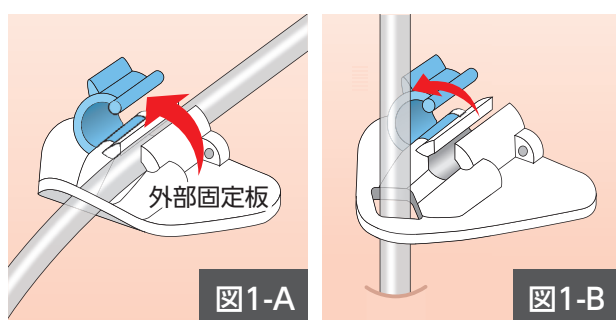
胃ろうの傷口が治りましたら、バンパー埋没症候群の予防のために、毎日胃ろうチューブの動きを確認します。

※バンパー埋没症候群とは、胃内固定板が胃の組織に埋もれてしまう状態のことです。

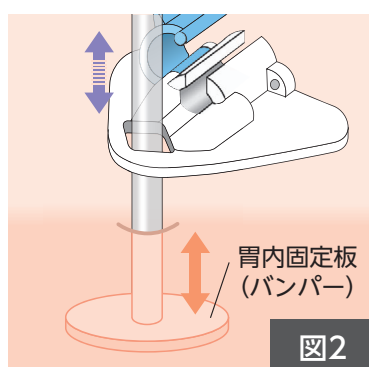


1. 両手を石鹸でしっかり洗います。
2. ガーゼを使用している場合は外します。
3. 外部固定板の青いクリップ\*を開いて(図1-A)。チューブを外し、チューブが自由に動くようにします(図1-B)。

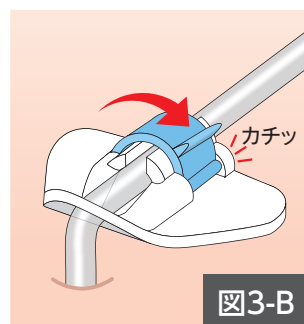
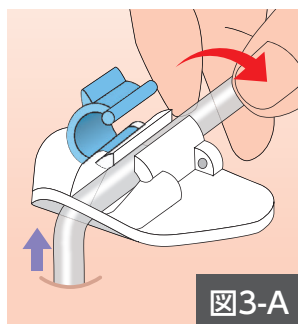
※20Frの胃ろうチューブの場合は紫色のクリップです。



4. チューブを3~4cm胃の方に慎重に押入れ、その次に胃内固定板の抵抗を感じるまでそっと引き戻します。チューブは回さないでください(図2)。



5. チューブが自由に動くように皮膚から0.5~1.0cm離して外部固定板を取り付けます(図3-A, B)。



6. 必要に応じてYカットガーゼを当ててください。

※ガーゼの交換は毎日行う必要はありません。

### チューブの動きを確認してみましょう

事前準備	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	Step 5	Step 6
<ul style="list-style-type: none"> <li>●両手を薬用石鹸でしっかり洗います</li> <li>●ガーゼを使用しているときは外します</li> </ul>						
	外部固定板の青いクリップを開きます	外部固定板からチューブを外し、チューブが自由に動くようにします	チューブを3~4cm胃の方に慎重に押し入れます	次にチューブをお腹の外に引き戻し、胃内固定板の抵抗を感じるところで止めます	チューブが自由に動くように皮膚から0.5~1.0cm離して外部固定板を取り付けます	最後に青いクリップをカチッと締めます
			チューブの押し引きは数回繰り返します			

※20Frの胃ろうチューブの場合は、紫色のクリップです。

## 胃ろうは清潔に保ってください

胃ろうの周辺の皮膚だけでなく、皮膚に接するチューブや外部固定板も、1日1回、ぬるま湯と石鹸で洗い、常に清潔で乾燥した状態に保つようにしてください。

石鹸は、低刺激性のものを使用してください。また、チューブが破損するおそれがあるため、アルコール、ポピドンヨードを含む製品は使わないでください。

胃ろう周辺の皮膚に使用する軟膏やクリームがチューブに付着した場合も、チューブの劣化の原因となります。シャワーや入浴時には、チューブも洗浄して清潔を保つようにしてください。



## 胃ろう周囲の炎症と感染について

胃ろう周辺の皮膚を毎日観察し、炎症や感染の徴候の有無を確認します。異常があれば早期に医師に相談しましょう。

### 炎症の徴候

- 赤くただれている。
- さらっとした水っぽい分泌物がある。
- 押すと痛む。

### 炎症の予防

- ポンプを携帯する際、チューブができるだけ引っ張られないように注意してください。
- チューブが引っ張られると胃ろう孔から胃液が漏れやすくなり、皮膚がただれやすくなります。

### 対処方法

- 患部を清潔に保ってください。
- 1日3～4回、普通の石鹸とぬるま湯で洗浄し、やさしく水気を拭き取り、乾燥させます。
- 浸出液が多い場合は、チューブのまわりにガーゼを当て、テープで固定します。
- 3日以内に症状が改善しない場合は、医師に相談してください。

### 感染の徴候

- 皮膚が真っ赤で、熱を持ち、腫れている。
- 粘りのある白～黄緑色に濁った分泌物がある。
- 胃ろうのまわりの皮膚が常に痛む。
- 発熱
- 胃ろうの周囲から悪臭がする。

### 対処方法

- ただちに医師に連絡してください。

※医師の指示通りに処置してください。特に軟膏類は自己判断で使用しないよう注意してください。